

大 防 第 1020号
平成21年7月31日

関係各位

大阪府病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について
標記について次のとおり発表したので送付します。

病虫害発生予報第4号(8月)

平成21年7月29日
大阪府病虫害防除所

農作物名	病虫害名	予想発生量
水稲	いもち病	○
	紋枯病	○
	もみ枯細菌病	○
	内えい褐変病	○
	セジロウンカ	△
	トビイロウンカ	□
	ツマグロヨコバイ	△
	ニカメイチュウ(第2世代)	▲
	イネツトムシ(イチモンジセセリ)	▲
	コブノメイガ	△
	斑点米カメムシ類	○
	イネアオムシ(フタオビコヤガ)	□
	コバネイナゴ	○
ぶどう	べと病	○

	晩腐病	○
	チャノキイロアザミウマ	□
	ハダニ類	□
	アメリカシロヒトリ	○
	トビイロトラガ	□
	フタテンヒメヨコバイ	□
みかん	黒点病	○
	そうか病	○
	ミカンハダニ	□
もも	せん孔細菌病	○
	ナシヒメシンクイ	□
いちじく	疫病	○
	アザミウマ類	□
	イチジクヒトリモドキ	□
なす	うどんこ病	□
	褐色腐敗病	□
キャベツ等アブラナ科 野菜類	コナガ類	△
	ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)	○
野菜・花き・大豆	アブラムシ類	□
野菜・花き類	ミカンキイロアザミウマ	△
	ミナミキイロアザミウマ	□
	シロイチモジヨトウ	□
	ハスモンヨトウ	□～○
	オオタバコガ	□
	ハダニ類	▲
きく	黒斑病・褐斑病	□
	白さび病	□
▲:少ない △:やや少ない □:並 ○:やや多い ●:多い		

8月気象予報(大阪管区气象台7月24日発表)

	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温(確率)	40	40	20
降水量	30	30	40
日照時間	50	30	20

A 水稻

【いもち病(穂いもち)】

[予報内容]発生量: やや多い

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、いもち病(葉いもち)はやや少なかった。

(2)8月の気象は気温が低く、降水量が多いと予想されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)葉いもちが発生していないほ場でも、今後の天候によってはいもち病(穂いもち)が発生することがあるので十分注意すること。

(2)晴天が続いても、谷あいのほ場では結露により本病が発生することがあるので注意を欠かさないこと。

(3)発生を認めたら、直ちに薬剤を散布する。

[メモ]

(1)低温、多雨、窒素過多(葉色が濃い)で発生が多くなる。

【紋枯病】

[予報内容]発生量: やや多い

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、発生は少なかった。

(2)8月の気象は気温が低く、降水量が多いと予想されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生を認めたら、直ちに薬剤を散布する。

[メモ]

(1)高温、多湿で発生が増加する。

(2)窒素過多、密植栽培は発生を助長する。

【もみ枯細菌病】

[予報内容]発生量:やや多い

[予報の根拠]

(1)昨年、予察ほ場ではもみ枯細菌病の発生は見られなかった。

(2)8月の降水量は多いと予想されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)出穂直前～穂ぞろい期に薬剤を散布する。

[メモ]

(1)出穂前後の降雨により発生が増加する。

【内えい褐変病】

[予報内容]発生量:やや多い

[予報の根拠]

(1)近年、発生が増加している。

(2)8月降水量は多いと予想されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)穂ばらみ期に薬剤を散布する。

(2)出穂前と出穂後に1回ずつ薬剤を散布する方が効果が高い。

[メモ]

(1)出穂前後に高温で降雨があれば発生しやすい。特に台風に注意。

【セジロウンカ】

[予報内容]発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、発生がやや少なかった。

(2)7月中旬までの予察灯への飛来数は少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)株元をよく観察し、発生が多い場合は、薬剤を散布する。

【トビイロウンカ】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、発生は平年同様見られなかった。

(2)7月中旬までの予察灯への飛来は平年同様ほとんど見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)急激に増加することがあるので、8月中下旬以降の発生に注意し、発生初期の防除を徹底する。

[メモ]

- (1)8～9月の気温が高温に推移すると発生が多くなる。
- (2)薬剤はなるべく株元にかかるように散布する。

【ツマグロヨコバイ】

[予報内容]発生量:やや少ない

[予報の根拠]

- (1)7月の巡回調査では、発生はやや少なかった。
- (2)7月中旬までの予察灯への飛来数はやや少ない。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)成・幼虫の発生が目立つほ場では8月上中旬までに防除を行う。

[メモ]

- (1)平年の成虫発生ピークは、8月下旬から9月上旬である。
- (2)箱施用剤のプリンス粒剤は、ツマグロヨコバイに対して効果が低い。

【ニカメイチュウ(第2世代幼虫)】

[予報内容]発生量:少ない

[予報の根拠]

- (1)7月中旬までの予察灯への飛来数、フェロモントラップの誘殺虫数ともに少なかった。
- (2)7月の巡回調査では、第1世代幼虫の発生・被害とも平年同様見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)局地的に多発するので、発生が多いところでは注意する。

[メモ]

- (1)防除時期は8月中旬である。

【イネツトムシ(第2世代幼虫)】

[予報内容]発生量:少ない

[予報の根拠]

- (1)7月の巡回調査では、第1世代幼虫の発生・被害は平年同様ほとんど見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)「つと」の発生が目立つところでは8月上旬に防除を行う。

[メモ]

- (1)7月が高温、多湿の年に第2世代幼虫の発生が多くなる。

(2)窒素過多(葉色が濃い)の水稻に多く産卵する。

【コブノメイガ】

[予報内容]発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、発生量は少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)被害葉が目立つほ場では早めに防除する。

(2)薬剤防除適期は、成虫が目立つようになってから1週間後である。

[メモ]

(1)セジロウンカやトビイロウンカと同様に梅雨期に海外から飛来してくる。

【斑点米カメムシ類】

[予報内容]発生量:やや多い

[予報の根拠]

(1)7月中旬までの予察灯への飛来数及び捕虫網によるすくい取り虫数は多かった。

(2)近年、発生は増加傾向にある。

[防除上考慮すべき事項]

(1)出穂2週間前の畦畔の除草を徹底する。なお、出穂前後の畦畔の除草は、カメムシ類を水田に追い込むため実施しない。

(2)出穂 10 日後頃に薬剤を散布する。

(3)カメムシ類は、日中はあまり活動しないため、夕方か早朝に薬剤散布を行う。

【フタオビコヤガ(イネアオムシ)】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、発生は平年並であった。

(2)7月中旬までの予察灯への飛来数は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)ほ場を見回り、発生が多い場合は薬剤を散布する。

【コバネイナゴ】

[予報内容]発生量:やや多い

[予報の根拠]

(1)7月に幼虫が一部の地域で多発。

[防除上考慮すべき事項]

(1)一株あたり0.8頭以上であると、収量、品質に影響する。

(2)ほ場を見回り、発生が多い場合は薬剤を散布する。

B 果樹

1 ぶどう(デラウエア)

【べと病】

[予報内容]発生量:やや多い

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、一部で発生が多かった。

(2)今後の気温はやや低め、日照時間は少なめに推移すると予報されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)巨峰やピオーネ等品種はデラウエアよりべと病に弱い。

(2)病気で早期に落葉すると樹勢低下につながり、次年度に影響する。

(3)収穫後の園も定期的に観察し、防除を徹底する。

[メモ]

(1)5月～10月にかけて、降雨が続き、気温が低めに経過すると発生が多い。

【晚腐病】

[予報内容]発生量:やや多い

[予報の根拠]

(1)7月後半の調査では、発生量はやや多かった。

(2)これから大粒系品種の収穫時期に入るが、降水量が多めと予想されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)本病は収穫期が近づき、糖度が高くなった果実で発生しやすい。

(2)鳥獣害や裂果等で傷ついた果房から発生することが多い。

(3)被害房は園外に持ち出して処分する。

【チャノキイロアザミウマ】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。

(2)黄色粘着トラップの誘殺数は平年並みだった。

【ハダニ類】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、発生量は平年並だった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)収穫終了後のぶどう園も定期的に観察して、発生に注意する。

(2)除草した後に、下草にいたハダニ類がぶどうに移動することがあるので注意する。

【アメリカシロヒトリ】

[予報内容]発生量:やや多い

[予報の根拠]

(1)街路樹等での発生が多い。

(2)集団で食害するので被害が大きい。

【トビイロトラガ】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、発生量は平年並であった。

【フタテンヒメヨコバイ】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、発生量は平年並であった。

2 みかん

【黒点病】

[予報内容]発生量:やや多い

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、発生量は平年並であった。

(2)8月の降水量はやや多い、日照時間はやや少ないと予想されている。

[メモ]

(1)この病気は、枯枝上から雨滴によって広がっていく。

【そうか病】

[予報内容]発生量: やや多い

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、発生量は平年並であった。

(2)8月の降水量はやや多い、日照時間はやや少ないと予想されている。

【ミカンハダニ】

[予報内容]発生量: 並

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、発生量は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)同一薬剤や同一系統の薬剤を連用すると、抵抗性が発達する恐れがある。

(2)合成ピレスロイド系の殺虫剤(アディオン等)は、天敵を減らすため、多用するとハダニ類増加を招く恐れがある。

3 もも

【せん孔細菌病】

[予報内容]発生量: やや多い

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、発生量は平年並であった。

(2)8月の降水量は、やや多いと予想されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)多発すると防除が困難となるので、早期防除を心掛ける。

(2)強い風雨後の発生に十分注意する。

【ナシヒメシンクイ】

[予報内容]発生量: 並

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、食害による枝折は平年並であった。

(2)フェロモントラップによる誘殺虫数は、平年並であった。

4 いちじく

【疫病】

[予報内容]発生量: やや多い

[予報の根拠]

(1)梅雨明けが遅れ、7月雨が多く、日照時間が短かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)マルチや敷きわらで雨滴の跳ね上がりを防ぐ。

(2)枝数を適正にして、日照と通風をよくする。

(3)被害を受けた果実は、園外に持ち出して処分する。

【アザミウマ類】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)7月の青色粘着トラップでの誘殺虫数は、平年並かやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)6月の発生量が多かったため、8月頃の収穫果の被害は多いと思われる。

【イチジクヒトリモドキ】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、卵塊、若齢幼虫は確認されなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)イヌビワなども食害を受けるので、発生源となる可能性がある。

5 果樹全般

【果樹カメムシ類】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)フェロモントラップの誘殺数は平年並だった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生状況は園による差が大きい。

(2)もも、かきなどの果樹が被害を受けやすい。

C 野菜類

1 なす

【うどんこ病】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)7月後半の巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)こまめに摘葉、摘芯を行い、過繁茂にならないようにする。
- (2)発生初期の防除を徹底する。
- (3)樹勢が弱ると多発しやすいので、肥切れにならないように管理する。

[メモ]

- (1)うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。

【褐色腐敗病】・

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

- (1)7月後半の巡回調査では、発生は平年と同様見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発病した枝や果実は、直ちにほ場外へ持ち出して処分する。
- (2)初期防除が重要なので、発病を認めた場合にはすぐに防除を行う。
- (3)降雨による泥のはね上がりを防止するために、マルチや敷きわらを行う。

2 キャベツ等アブラナ科野菜

【コナガ】

[予報内容]発生量:やや少ない

[予報の根拠]

- (1)7月のフェロモントラップへの誘殺虫数は少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発生初期の防除を徹底する。

【ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)】

[予報内容]発生量:やや多い

[予報の根拠]

- (1)7月下旬のフェロモントラップへの誘殺虫数はやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)セル成形苗では発生すると欠株を生じるので、発生初期に防除を徹底する。
- (2)被覆資材によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。

[メモ]

- (1)8月に発生が急激に増加することがある。

D 野菜・花き・大豆

【アブラムシ類】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)7月後半のなす、きく巡回調査では、発生は平年並であった。

(2)7月の黄色水盤による誘殺虫数はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)少発生時の防除を徹底する。

(2)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

[メモ]

(1)アブラムシ類は多種類のウイルス病を媒介する。

E 野菜・花き

【ミカンキイロアザミウマ】

[予報内容]発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

(2)7月の粘着トラップへの誘殺虫数はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)収穫後の残さは、他作物等への発生源となるので、速やかに処分する。

(2)きくでは膜割れ前後の防除を徹底する。

[メモ]

(1)ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマは、ウイルス病(TSWV)を媒介する。

【ミナミキイロアザミウマ】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)7月の露地なす巡回調査の、見取り調査や花たたき法による調査では発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。

(2)同一薬剤の連用を避けローテーション散布を行う。

【シロイチモジヨトウ】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)7月のフェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。

(2)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm 目合で可)で被覆すれば、成虫の侵入を阻止できる。

(3)フェロモンディスペンサーを設置すれば、成虫の交尾を阻害し、被害を軽減できる。

(4)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる

【ハスモンヨトウ】

[予報内容]発生量:並～やや多い

[予報の根拠]

(1)7月のフェロモントラップへの誘殺虫数は平年並かやや多かった。

(2)7月のさといもの巡回調査では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。

(2)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm 目合で可)で被覆すれば、成虫の侵入を阻止できる。

(3)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

(4)8月以降、急激に増加することがあるので注意する。

【オオタバコガ】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、なすで被害の発生は平年並であった。

(2)7月のフェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。

(2)被害のあった新芽や果実は早期に処分し、周辺の幼虫を探して捕殺する。

(3)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm 目合で可)で被覆し、成虫の侵入を阻止する。

(4)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減

減できる。

【ハダニ類】

[予報内容]発生量:少ない

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査での発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期の防除を徹底する。

(2)同一薬剤の連用を避ける。

[メモ]

(1)高温、乾燥条件で多発する。

F 花き類

1 きく

【黒斑病・褐斑病】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、平年どおり発生はなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)品種によって、発生には差が大きい。

(2)雨が多いと発生しやすい。

【白さび病】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、平年どおり発生はなかった。

●大阪府病害虫防除所ホームページ

<http://www.jppn.ne.jp/osaka>

防除指針を掲載しています(毎月更新)

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府病害虫防除所メールサービス担当

TEL 072-958-6551(内線232)

<情報料無料>

年間約40件の病虫害情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府環境農林水産総合研究所(本部)

企画調整部技術普及課

おおさかアグリメール受付担当

TEL 06-6972-7666

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

(受信に要する通信費は自己負担です。)

●Web版大阪府園芸植物病虫害図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病虫害」

<http://www.epcc.pref.osaka.jp/afr/zukan/index.html>

(社団法人大阪府植物防疫協会)